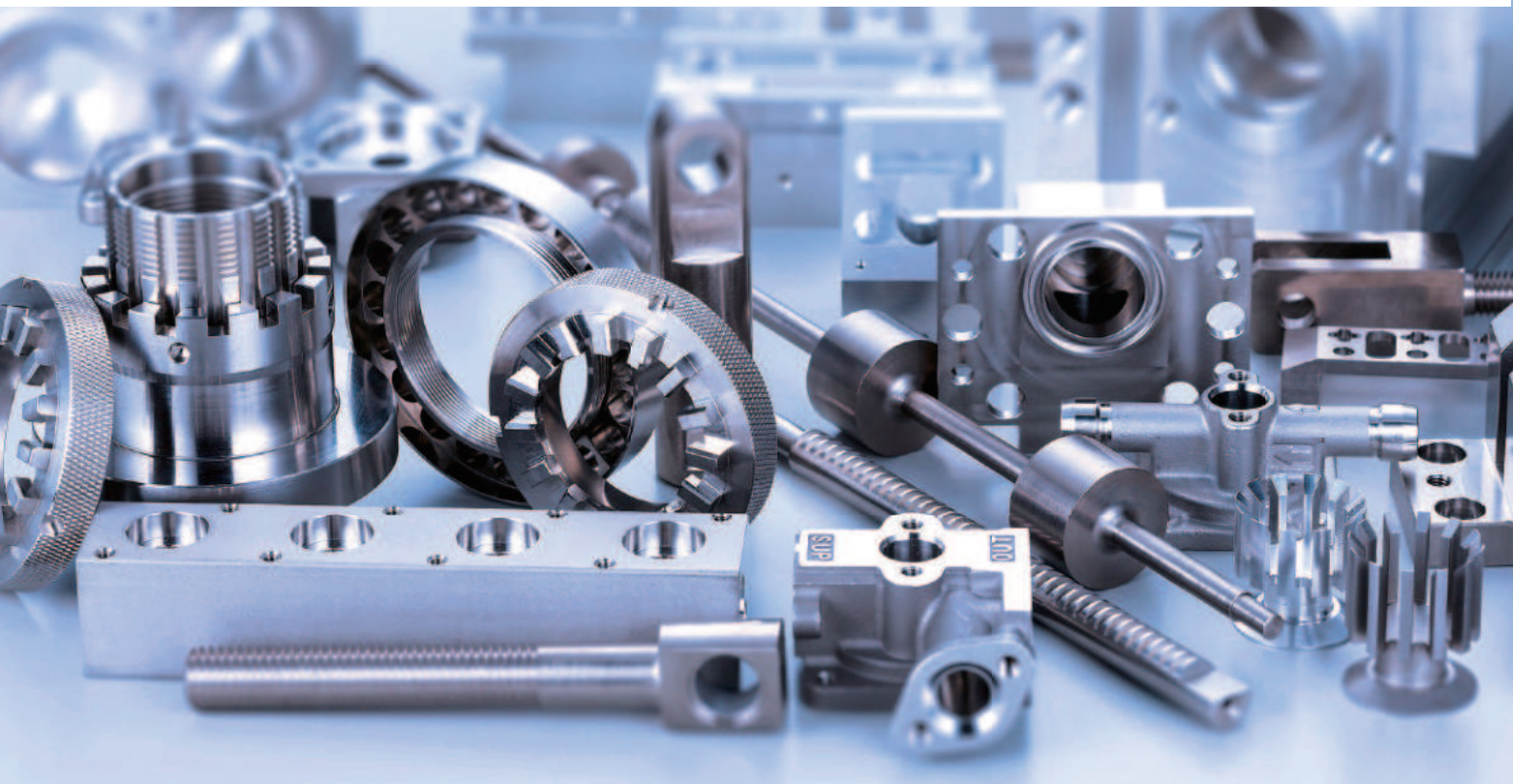




KOBAYASHI SEIKI CORPORATION LIMITED

株式会社 小林 精 機

人と金属の インターフェイス

小林精機が目指すのは、
人と金属のインターフェイス。
ものづくりの向こうには、それを待つ人
が必ずいる。
私たちの役割は金属を通して人々の
生活を支える力となること。
開発力、技術力、人間力を結集し
小林精機は豊かな未来を創造し続ける。

Special Feature 小林精機の特徴



多品種少量にも、超短納期にも、 柔軟に対応します。

試作品1個から数万個の生産まで、月6,000件以上の発注に対応。また、通常ラインとは別に、超短納期ラインを設置。受注当日に加工をスタートし、翌日には全国に出荷します。



省力化装置の開発で、 お客様の製品生産をサポートします。

生産の効率化、技術力向上のために、岩手県工業技術センターと共同で省力化装置を設計開発しています。開発した装置はお客様のオーダーでカスタマイズして販売もしています。

研究開発に取り組み、 新素材に対応します。

岩手県工業技術センターや岩手大学、東北大学をはじめ、産学官連携の共同研究を推進しています。岩手発の高性能新合金の切削加工研究に取り組むなど、新素材にも積極的に対応します。



創業65周年を迎え、新たな一步を踏み出す



高い品質と低コスト、短納期をひたむきに追求し、創業65年を迎えることができました。これもひとえに、多くの方々のご支援とご協力の賜物と心から感謝申し上げます。

消費の多様化が進み、ものづくりにとって厳しい時代が続いています。品質、価格、納期は原則であり、新素材や複雑な形状、超短納期など、様々な要求への柔軟な対応力が求められています。時代の流れを冷静に見つめながら、小林精機にしかできない卓越した技

代表取締役 会長 小林 清之

能と高い開発力を育み、先端のIT技術による管理力も身につけ、企業の総合力で取り組むことが今の時代に必要不可欠な要素ではないでしょうか。

ものづくり企業として忘れてはならないものに、「誠実」、「正確」、「精度」、「スピード」があります。その結晶として、お客様から「信頼」を得ることができるのです。総合力であるこの「新5S」を心に、小林精機は新たな一步を踏み出し、前進し続けていきます。

世界に勝つメイドインジャパンのものづくり



市場ではグローバルな競争が激化しています。小林精機として未来の産業構造に迅速に対応ができるよう、アンテナを常に高く掲げ、ビジネスチャンスを実際に掴むことが重要なテーマになると位置づけています。

幅広い業界からの多品種少量のオーダーに、スピーディー、かつ確実に対応できる我々の強みをアピールし、新たな取引先の開拓に努めること、また、国内に軸足を置きながらも海外展開も視野に入れ、世界との競争に

代表取締役 社長 小林 要

打ち勝つ「メイドインジャパン」にこだわったものづくり企業を目指します。

そして、地域のみならず必要とされる企業であり続けることも大切な取り組みのひとつです。この岩手の地から、小林精機ブランドの製品を開発し世に送り出したい。この夢に向かって、我が社は取組んで参ります。

Work Flow

小林精機の5つのStepから垣間見えるのは、長年積み上げてきたものづくりへの“こだわり”。お客様のご要望に高レベルの技術力、開発力、管理力で応えるため、小林精機は日々研鑽を重ねています。

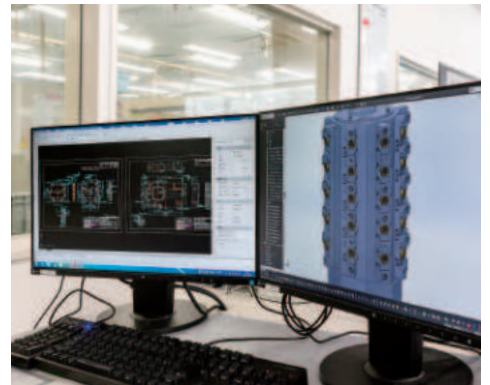
Step-1 受注

三次元CADを導入 より効率的・高品質な受注体制

[営業本部・営業技術部]

従来の紙ベースでの図面のやり取りに代わり、EDI（電子データ交換）による受注が増加しています。

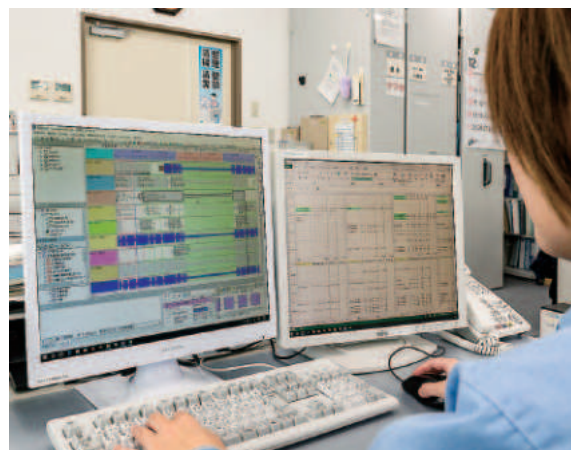
当社では3次元CADの導入をはじめ、最新のネットワーク環境に対応し、よりスムーズなやり取りが可能に。更なる高効率化・高品質化に取り組んでいます。



3次元CAD/CAMによる設計開発

Step-1
受 注
ORDER

Step-2
生産管理
システム
PRODUCTION
CONTROL SYSTEM



生産スケジューラで分刻みに工場を管理

Step-2 生産管理システム

多品種少量生産対応の 自社開発システム

[管理部]

自社に適応した業務システムを自社開発したことにより、材料手配から生産個数、工程、納期まで、生産現場への細かな作業指示をパソコン上で処理。

多品種少量生産から量産まで、全ての生産工程は生産スケジューラーで自動計画され、毎月6,000件以上の注文を正確かつスピーディーに処理しています。

Step-3 加工

多様な設備と技術力で あらゆるニーズに対応

[製造部]

ISO9001の導入と製造管理システムの活用により、独自の一貫生産体制を確立しています。CNC自動盤、NC旋盤、微小径細穴加工、マシニングセンター、タッピングセンターなど多様な設備を揃え、あらゆるニーズに応えられる体制を整備しています。

取り扱える材料の種類も幅広く、ステンレス、アルミ、真鍮、チタン、合成樹脂まで柔軟に対応。品質への信頼度は高く、大手メーカーのOEM製品も請け負っています。



横形マシニングセンターHM500S



5軸複合加工機NT1000



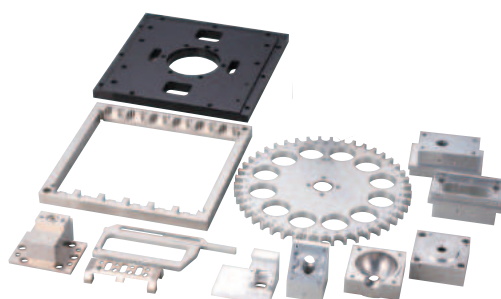
CNC複合自動盤M32

Step-3 加工 PROCESSING

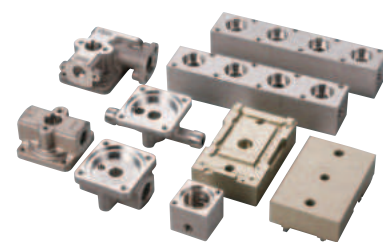
Step-4 検査 INSPECTION



CNC自動盤、NC旋盤加工製品例



MC加工製品例



異形素材2次加工、加工治具例

Step-4 検査

高品質を可能にする 厳正な検査体制

[品質保証部]

三次元測定機で、平面的な検査から複合的で難易度の高い検査が可能となっています。また新たに蛍光 X 線分析装置を導入。加工現品の寸法精度確認はもちろん、材質確認もより高いレベルで品質保証を提供します。

システム面では、加工者自身が責任を持って品質を管理する「工程内検査」と、材料受入から出荷までの全工程のトレーサビリティがとれるオリジナルの帳票「トラベルシート」による管理を実施。より良質な製品を作り込む体制が整備されています。



蛍光X線分析装置



CNC三次元測定器

Step-5

出荷

SHIPPING

Step-5 出荷

特別組織を設置し 超短納期に対応

[管理部・特機部]

お客様へ最短の日数で部品を提供することを特命とした「特機部」を設置。受注日の夜にお客様の指定寸法で加工し、翌日に後処理を行い全国へ発送する体制を確立しています。

より精密な部品をいかに早くお届けできるかを日々追求し、短納期へ挑戦し続けています。

卓越した熟練の技術を 「里山づくり」で次世代へ

[技術者育成]

現在はボタンひとつで切削が可能な旋盤も、本来自らの手を使い作業するものでした。切削加工の本質を理解するためには、目で見える、加工の音を聞く、手で振動を感じる、油の焼けた匂いを嗅ぐ、機械の温度を感じるなど、五感で知ることが重要です。

「五感を駆使し、自ら考えることが出来る人材を育てたい」との想いから、当社では「里山づくり」と題し、根本に立ち返り、汎用旋盤・汎用フライス盤による技能訓練に取り組んでいます。

コンピュータ内蔵のNC旋盤、CNC自動盤、マシニングセンタ(MC)/タッピングセンタ(TC)のNCプログラム作成技術の教育も実施。技術に対する意識を高めるために、国家技能検定や社内検定にも積極的に挑戦、資格保持者は全体の半数に上ります。



技術を体感することで、最新のマシンもより効率的に使うことが可能となる

自社開発、大学との連携、 独創技術を追いつける

[生産技術課]

昭和63年、当時では珍しい研究開発型の協同組合として異業種5社（現在6社）で発足したテクニア岩手協同組合への参画が当社の研究開発事業の推進力となっています。現在では、いわて産業振興センター、東北大学と連携し、岩手発の高性能新合金「コバルト合金」の切削加工技術研究に取り組んでいます。難削材のため工業利用は困難といわれていましたが、研究が実を結び加工に成功。現在はダイカスト金型の鋳抜きピンへの応用を目指しています。

また、工場のスペース、ニーズに合わせてCNC自動盤などの生産設備を社内でカスタマイズ。社内作業の効率化を図るとともに、アイデアを出し合うことで技術者のスキルアップにもつながっています。



先進の次世代技術の要求に応え、付加価値の高い研究開発に取り組む

研究開発の実績

- 無人加工セルシステムの開発
(平成5年度／地域人材不足対策技術開発事業)
- 無人加工セルシステムのインテリジェント化に関する研究開発
(平成8年度～平成9年／中小創造法適用)
- レーザーセンサーによる工具摩耗計測装置の開発
(平成12～14年度／公設試共同研究推進事業に参加)
- 切削加工プログラム作成の高度化
(平成21年度地域ものづくり企業技術高度化支援事業)



会社概要

創 業 昭和28年(1953年)10月
設 立 昭和52年(1977年)2月
資 本 金 3,500万円
代 表 者 代表取締役会長 小林清之
 代表取締役社長 小林 要
事業内容 各種精密機械部品の加工及び組立、自動
 化・省力化機器の設計製作、コンピュータ
 ソフト開発等
生 産 品 目 医療分析装置部品、化学分析装置部品、
 バルブ部品、自動弁、産業用機械部品、航
 海計器部品、光学機器部品、自動車部品、
 工業計測機部品、半導体製造装置部品、
 コンピュータ周辺機器部品、工作機械部
 品、その他試作品、試験片等

沿 革

1953年	創業者小林憲吉が盛岡市志家町にて「小林精機製作所」の営業を開始	2005年	大崎工場第4工場棟完成
1958年	盛岡市山王町に移転	2009年	環境マネジメントシステム「KES」認証取得
1977年	資本金300万円で法人設立、社名を「有限会社小林精機」に変更	2010年	資本金を2,000万円に増資
1978年	小林清之代表取締役就任	2011年	㈱リコーグループ化学物質管理システム認証取得
1989年	滝沢村大崎に本社工場移転	2012年	盛岡西リサーチパークに本社工場移転(第1、第2工場新設)
1990年	資本金を500万円に増資、岩手県機械金属厚生年金基金加盟	2013年	ISO14001認証取得
1991年	大崎工場第2工場棟完成	2015年	切削加工の関連会社㈱コバテックを設立
1992年	資本金を1,000万円に増資	2015年	本社第3工場(検査ロジスティックス棟)完成
1996年	岩手県より中小企業創造活動促進法の認定を受ける	2017年	小林清之代表取締役会長就任 小林要代表取締役社長就任
1997年	大崎工場研究開発棟完成	2018年	東京中小企業投資育成(株)より資本投資を受け 資本金3,500万円に増資
2000年	大崎工場第3工場棟完成	2018年	経済産業省より地域未来牽引企業の認定を受ける
2001年	社名を「株式会社小林精機」に変更、ISO9002認証取得	2019年	第4工場(コバテック棟)および第5工場完成 経済産業省より事業継続力強化計画の認定を受ける
2003年	設計部門を含め、ISO9001認証へ移行		

株式会社 小林精機

〒020-0757 岩手県滝沢市大釜風林3-21

TEL.019-686-1166(代) FAX.019-691-9130 <http://www.kobayashi-seiki.co.jp/>

ISO9001/14001認証



地域未来牽引企業



経済産業省